

St. Luke's International University Repository

How Do We Develop the Certified Nurse Specialist's System.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野末, 聖香, 及川, 郁子, Nozue, Kiyoka, Oikawa, Ikuko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00015020

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



私たちは専門看護師制度をどう発展させるのか

How Do We Develop the Certified Nurse Specialist's System

野末聖香¹⁾、及川郁子²⁾

I. 専門看護師制度の発展と課題

近年、国民のヘルスケアニーズは多様化・複雑化し、医療依存度の高い在宅療養支援、疾病予防、高度先進医療における支援等へのニーズが高まっている。医療経済の逼迫や医師不足等の問題もあり、看護内容の充実、看護活動の場の拡大、諸職種との連携強化、専門性の高い看護師の活動推進等が期待されている。専門看護師の認定制度は1994年より開始され今年で14年目となった。2008年1月現在9分野で認定が行われ、専門看護師教育課程をもつ大学院も25大学院となり、238名の専門看護師が活動している。2007年4月には改正医療法が施行され専門看護師の広告も可能となった。7月には日本専門看護師協会が発足し活動を始めた。このように、専門看護師をめぐる制度は段階的に発展してきている。しかし依然課題も多い。例えば、専門看護師の雇用が進まないこと、組織的位置付けの不安定さ、質保証のための継続トレーニングの充実、今後の専門看護師のあり方等がある。

II. 学会フォーラムの開催

そこで、専門看護師育成に歴史をもつ聖路加看護大学学術集会で「私たちは専門看護師制度をどう発展させるのか」をテーマに学会フォーラムを開催した。日本看護系大学協議会、日本看護協会、専門看護師を活用している看護管理者からパネリストを迎え、専門看護師の実践や制度における課題、それを乗り越えるための方略についてご発言いただいた。

まず、日本看護協会理事の廣瀬千也子氏が登壇、「専門看護師個人認定の促進と制度の充実」をテーマに発言された。専門看護師制度における日本看護協会の役割が「看護専門分野認定、個人認定および更新審査、制度の見直し・普及」であることを確認したうえで、専門看護師の専従化が19%と進んでいないこと、教育課程修了者の約半数しか認定を受けていないこと等の問題点があげられた。そして、認定試験受験率向上に向けた方略として、管理者の理解、専門看護師自身の研鑽と主体的ア

プローチが必要であること、さらに制度的、経営的、教育的課題が指摘された。

次に、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会委員長の井上智子氏が登壇、「CNS教育課程の洗練と教育制度の発展」をテーマに発言された。まず米国におけるCNS、NP、そしてAPN誕生の背景、Doctor of Nursing Practice (DNP) の状況が紹介された。そのうえで、日本の大学教育課程の認定システム、教育内容の現状と、日本看護系大学協議会が取り組んできた看護専門職大学院設置基準の検討、高度実践看護師 (ANP) 制度の検討について紹介された。専門看護師教育の見直しとANPのcore competenciesの検討に基づき、今後の大学院教育の課題として、学士教育からの一貫した専門・継続教育、大学院教育での体系的な教育プログラムの整備、教員の育成、資格認定制度と第三者評価、認証評価のシステムづくりが必要であることが指摘された。

最後に、専門看護師を活用する管理者の立場から北里大学病院看護部の鈴木美枝子氏が登壇、「CNSの機能発揮と成長促進」というテーマで発言された。病院における専門看護師誕生の沿革と配置や位置付け、専門看護師活動の推移と看護管理者による支援の実際、現場での工夫や課題について紹介された。そして、専門看護師に対しては役割意識をもって信頼を得ながら活動し専門性が客観的に評価できるような結果を出すことや変革者となることを期待し、管理者に対しては専門看護師と協働して柔軟かつ合理的にマネジメントし、組織環境を整備することを期待すると述べられた。

III. ディスカッション

パネリストの発言後、フロアとのディスカッションが行われた。まず、制度発展のために、関連団体が有機的につながって専門看護師の質の担保や数の増加を図ることが必要であることが確認された。また現場の管理者が専門看護師の発達段階に応じた支援をすることが重要であるという意見が出された。さらに専門看護師の方にも活用してもらう戦略的能力が必要であり、その能力を育てるためのカリキュラム上の課題があるのでは、という

1) 慶應義塾大学、2) 聖路加看護大学

指摘に対し、さまざまな背景の院生に対して2年間でできる教育の限界があること、専門職大学院設置の検討も必要等の意見が出された。また専門看護師教育課程修了生のうち専門看護師になる者が半数以下という実態について、現場に就職する際「まずはスタッフで」と入職しても、その後専門看護師に移行できる割合がきわめて少なく、病院で専門看護師を育てるという意識をもつ必要があることが話し合われた。

IV. おわりに

本フォーラムをとおして、専門看護師の発展のためにこれまでなされてきた日本看護系大学協議会、日本看護協会、臨床・臨地、関係省庁、諸学会などの精力的取り組みが再認識された。今後は日本専門看護師協議会等も含め関連組織の連携をさらに強め、専門看護師の将来のあり方を見据えて、未来に向かって認定制度、教育制度、教育プログラムと教育者育成、実践現場の整備等の課題に取り組む必要がある。

(CNSフォーラムで貴重なご発言をいただいたパネリストの皆様、参加者の皆様に感謝いたします)